

5. 研修の到達目標

(1) 基本的研修目標

各項目の評価で、a～dの4つのうち適切なものに「1」を記入すること
 a:とりわけ優れている b:平均を上回っている
 c:平均レベルに到達している d:不十分なレベルに留まっている

I 行動目標 医療人として必要な姿勢・態度

(1) 患者－医師関係

	a	b	c	d
1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。				
2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントが実施できる。				
3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。				

(2) チーム医療

	a	b	c	d
1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。				
2) 上級および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。				
3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。				
4) 患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。				
5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。				

(3) 問題対応能力

	a	b	c	d
1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる。 (EBM: Evidence Based Medicineの実践ができる。)				
2) 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。				
3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。				
4) 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的臨床能力の向上に努める。				

(4) 安全管理

	a	b	c	d
1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。				
2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどの沿って行動できる。				
3) 院内感染対策 (Standard Precautionsを含む) を理解し、実施できる。				

(5) 医療面接

	a	b	c	d
1) 医療面接におけるコミュニケーションのもつ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。				
2) 患者の病歴(主訴、現病歴、既往症、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー)の聴取と記録ができる。				
3) インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、指導ができる。				

(6) 症例呈示

	a	b	c	d
1) 症例呈示と討論ができる。				
2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。				

(7) 診療計画

	a	b	c	d
1) 診療計画(診断、治療、患者・家族への説明を含む)を作成できる。				
2) 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。				
3) 入退院の適応を判断できる(デイサージャリー症例を含む)。				
4) QOL(Quality of Life)を考慮に入れた総合的な管理計画(リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む)へ参画する。				

(8) 医療の社会性

	a	b	c	d
1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。				
2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。				
3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。				

II 経験目標 A 経験すべき診察法・検査・手技

患者ID欄

(CPCLレポート用)

(1) 基本的な身体診察法

	a	b	c	d
1) 全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる。				
2) 頭頸部の診察(眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む)ができ、記載できる。				
3) 胸部の診察ができ、記載できる。				
4) 腹部の診察ができ、記載できる。				
5) 骨盤内診察ができ、記載できる。				
6) 泌尿・生殖器の診察ができ、記載できる。				
7) 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。				
8) 神経学的診察ができ、記載できる。				
9) 小児の診察(生理的所見と病的所見の鑑別を含む)ができ、記載できる。				
10) 精神面の診察ができ、記載できる。				

(2) 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、
 [A]……自ら実施し、結果を解釈できる。
 その他…検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

必修項目 * のついた検査について経験があること
 「経験」とは受け持ち患者の検査として診療に活用すること
 [A]の検査で自ら実施する部分については、受け持ち症例でなくてもよい

	症例数	a	b	c	d
1) 一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む) *					
2) 便検査 *(潜血、虫卵)					
3) 血算・白血球分画 *					
A 4) 血液型判定・交差適合試験 *					
A 5) 心電図(12誘導) *、負荷心電図					
6) 動脈血ガス分析 *					
7) 血液生化学的検査 * ・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素など)					
8) 血液免疫血清学的検査(免疫細胞検査、アレルギー検査を含む) *					
9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査 * ・検体の採取(痰、尿、血液など) ・簡単な細菌学的検査(グラム染色など)					
10) 肺機能検査 * ・スパイロメトリー					
11) 髄液検査 *					
12) 細胞診・病理組織検査					
13) 内視鏡検査 *					
A 14) 超音波検査 *					
15) 単純X線検査 *					
16) 造影X線検査					
17) X線CT検査 *					
18) MRI検査					
19) 核医学検査					
20) 神経生理学的検査(脳波・筋電図など)					

(3) 基本的手技

必修項目 * のついた手技を自ら行った経験があること

患者ID欄

(CPCLレポート用)

	症例数	a	b	c	d
1) 気道確保 * を実施できる。					
2) 人工呼吸 * を実施できる。(バグマスクによる徒手換気を含む)					
3) 心マッサージ * を実施できる。					
4) 圧迫止血法 * を実施できる。					
5) 包帯法 * を実施できる。					
6) 注射法(皮内 * 、皮下 * 、筋肉 * 、点滴 * 、 静脈確保 * 、中心静脈確保)を実施できる。					
7) 採血法(静脈血 * 、動脈血 *)を実施できる。					
8) 穿刺法(腰椎 * 、胸腔、腹腔)を実施できる。					
9) 導尿法 * を実施できる。					
10) ドレーン・チューブ類の管理 * ができる。					
11) 胃管の挿入と管理 * ができる。					
12) 局所麻酔法 * を実施できる。					
13) 創部消毒とガーゼ交換 * を実施できる。					
14) 簡単な切開・排膿 * を実施できる。					
15) 皮膚縫合法 * を実施できる。					
16) 軽度の外傷・熱傷の処置 * を実施できる。					
17) 気管挿管 * を実施できる。					
18) 徐細動 * を実施できる。					

(4) 基本的治療法

	症例数	a	b	c	d
1) 療養指導(安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む)ができる。					
2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療(抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬を含む)ができる。					
3) 輸液ができる。					
4) 輸血(成分輸血を含む)による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。					

(5) 医療記録

必修項目 * を自ら行った経験があること

	症例数	a	b	c	d
1) 診療録(退院時サマリーを含む)を POS(Problem Oriented System)に従って記載し * 、管理できる。					
2) 処方箋、指示箋を作成し * 、管理できる。					
3) 診断書、その他の証明書を作成し * 、管理できる。					
4) 死亡診断書(死体検案書を含む)を作成し * 、管理できる。					
5) 注) CPC(臨床病理カンファランス)レポートを作成し、症例呈示 * できる。					
6) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき * 、それを管理できる。					

注) 本来のCPCレポートは、病理科の剖検報告を受けてから様式に従ってまとめ、各診療科でのカンファランスあるいはCPCや院外で発表し提出すること。剖検症例を受け持たなかった場合は、急性期・総合医療センターCPC(年4回開催)と院内CPC(不定期に開催)に出席して、合計3回分のCPCレポートをまとめて、上級医・指導医の評価を受けた後、研修管理室に提出し、本来のCPCレポートの代替とする。いずれも上級医・指導医と病理指導者の両者の評価が必要である。本評価表の患者ID欄に患者IDを入力する。

II 経験目標 B 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 頻度の高い症状

必修項目 * のついた症状を経験し、レポートを提出する。

「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと
 レポートは「症状レポート」の様式に従ってまとめ、上級医・指導医の
 評価を受けた後研修管理室に提出する。
 入院患者では経験できない症状も、時間外救急外来当直の際に経験可能である。
 本評価表の患者ID欄に患者IDを入力する。

患者ID欄

	症例数	a	b	c	d
1) 全身倦怠感					
2) 不眠 *	レポート				
3) 食欲不振					
4) 体重減少、体重増加					
5) 浮腫 *	レポート				
6) リンパ節腫脹 *	レポート				
7) 発疹 *	レポート				
8) 黄疸					
9) 発熱 *	レポート				
10) 頭痛 *	レポート				
11) めまい *	レポート				
12) 失神					
13) けいれん発作					
14) 視力障害 *、視野狭窄 *	レポート				
15) 結膜の充血 *	レポート				
16) 聴覚障害					
17) 鼻出血					
18) 嘔声					
19) 胸痛 *	レポート				
20) 動悸 *	レポート				
21) 呼吸困難 *	レポート				
22) 咳・痰 *	レポート				
23) 嘔気・嘔吐 *	レポート				
24) 胸やけ					
25) 嚥下困難					
26) 腹痛 *	レポート				
27) 便通異常(下痢・便秘) *	レポート				
28) 腰痛 *	レポート				
29) 関節痛					
30) 歩行障害					
31) 四肢のしびれ *	レポート				
32) 血尿 *	レポート				
33) 排尿障害(尿失禁・排尿困難) *	レポート				
34) 尿量異常					
35) 不安・抑うつ					

II 経験目標 B 経験すべき症状・病態・疾患

(2) 緊急を要する症状・病態

必修項目 * のついた病態を経験すること
 「経験」とは、初期治療に参加すること

	症例数	a	b	c	d
1) 心肺停止 *					
2) ショック *					
3) 意識障害 *					
4) 脳血管障害 *					
5) 急性呼吸不全					
6) 急性心不全 *					
7) 急性冠症候群 *					
8) 急性腹症 *					
9) 急性消化管出血 *					
10) 急性腎不全					
11) 流・早産および満期産					
12) 急性感染症					
13) 外傷 *					
14) 急性中毒 *					
15) 消化管異物、気道異物					
16) 熱傷 *					
17) 精神科領域の救急					

II 経験目標 B 経験すべき症状・病態・疾患

(3) 経験が求められる疾患・病態

必修項目

1. [A]疾患については入院患者を受け持ち、様式に従って「疾患・病態レポート」をまとめ、上級医・指導医の評価を受けた後研修管理室に提出すること。
2. [B]疾患については、外来診察または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験すること。
3. 外科手術症例を1例以上受け持ち、様式に従って「外科手術レポート」をまとめ、上級医・指導医の評価を受けた後研修管理室に提出すること。

患者ID欄

※レポート提出項目については、本評価表の患者ID欄に患者IDを記入すること

※全疾患(88項目)のうち70%以上を経験することが望ましい

<1> 血液・造血器・リンパ網内系疾患

		症例数	a	b	c	d
B	①貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)					
	②白血病					
	③悪性リンパ腫					
	④出血傾向・紫斑病(播種性血管内凝固症候群: DIC)					

<2> 神経系疾患

			a	b	c	d
A	①脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)	レポート				
	②認知症性疾患					
	③脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)					
	④変性疾患(パーキンソン病)					
	⑤脳炎・髄膜炎					

<3> 皮膚系疾患

			a	b	c	d
B	①湿疹・皮膚炎群(接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎)					
B	②蕁麻疹					
	③薬疹					
B	④皮膚感染症					

<4> 運動器(筋骨格)系疾患

			a	b	c	d
B	①骨折					
B	②関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷					
B	③骨粗鬆症					
B	④脊柱障害(腰椎間板ヘルニア)					

<5> 循環器系疾患

			a	b	c	d
A	①心不全	レポート				
B	②狭心症、心筋梗塞					
	③心筋症					
B	④不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈)					
	⑤弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)					
B	⑥動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)					
	⑦静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)					
A	⑧高血圧症(本態性、二次性高血圧症)	レポート				

<6>呼吸器系疾患

			a	b	c	d
B	①呼吸不全					
A	②呼吸器感染症(急性上気道炎、気管支炎、肺炎)	レポート				
B	③閉塞性・拘束性肺疾患(気管支喘息、気管支拡張症)					
	④肺循環障害(肺塞栓・肺梗塞)					
	⑤異常呼吸(過換気症候群)					
	⑥胸膜・縦隔・横隔膜疾患(自然気胸、胸膜炎)					
	⑦肺癌					

<7>消化器系疾患

			a	b	c	d
A	①食道・胃・十二指腸疾患(食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎)	レポート				
B	②小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻)					
	③胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)					
B	④肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害)					
	⑤膵臓疾患(急性・慢性膵炎)					
B	⑥横隔膜・腹壁・腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア)					

<8>腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)疾患

			a	b	c	d
A	①腎不全(急性・慢性腎不全、透析)	レポート				
	②原発性糸球体疾患(急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群)					
	③全身性疾患による腎障害(糖尿病性腎症)					
B	④泌尿器科的腎・尿路疾患(尿路結石、尿路感染症)					

<9>妊娠分娩と生殖器疾患

			a	b	c	d
B	①妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥)					
	②女性生殖器およびその関連疾患(無月経、思春期・更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍)					
B	③男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍)					

<10>内分泌・栄養・代謝系疾患

			a	b	c	d
	①視床下部・下垂体疾患(下垂体機能障害)					
	②甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)					
	③副腎不全					
A	④糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖)	レポート				
B	⑤高脂血症					
	⑥蛋白および核酸代謝異常(高尿酸血症)					

<11>眼・視覚系疾患

			a	b	c	d
B	①屈折異常(近視、遠視、乱視)					
B	②角結膜炎					
B	③白内障					
B	④緑内障					
	⑤糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化					

<12>耳鼻・咽喉・口腔系疾患

			a	b	c	d
B	①中耳炎					
	②急性・慢性副鼻腔炎					
B	③アレルギー性鼻炎					
	④扁桃の急性・慢性炎症性疾患					
	⑤外耳道・鼻腔・咽喉頭・喉頭・食道の代表的な異物					

<13>精神・神経系疾患

			a	b	c	d
	①症状精神病					
A	②認知症(血管性認知症を含む)	レポート				
	③アルコール依存症					
A	④うつ病	レポート				
A	⑤統合失調症	レポート				
	⑥不安障害(パニック症候群)					
B	⑦身体表現性障害、ストレス関連障害					

<14>感染症

			a	b	c	d
B	①ウイルス感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)					
B	②細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)					
B	③結核					
	④真菌感染症(カンジダ症)					
	⑤性感染症					
	⑥寄生虫疾患					

<15>免疫・アレルギー疾患

			a	b	c	d
	①全身性エリテマトーデスとその合併症					
B	②慢性関節リウマチ					
B	③アレルギー疾患					

<16>物理・化学的因子による疾患

			a	b	c	d
	①中毒(アルコール、薬物)					
	②アナフィラキシー					
	③環境要因による疾患(熱中症、寒冷による障害)					
B	④熱傷					

<17>小児疾患

			a	b	c	d
B	①小児けいれん性疾患					
B	②小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)					
	③小児細菌感染症					
B	④小児喘息					
	⑤先天性心疾患					

<18>加齢と老化

			a	b	c	d
B	①高齢者の栄養摂取障害					
B	②老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)					

☆外科手術例

			a	b	c	d
A	症例レポート	レポート				

II 経験目標 C 特定の医療現場の経験

☆(1)～(6)の必修項目にある「現場の経験」とは、各現場における到達目標の項目のうち一つ以上経験すること

(1) 救急医療

必修項目 救急医療の現場を経験すること

	症例数	a	b	c	d
1)重症度および緊急度の把握ができる。					
2)ショックの診断と治療ができる。					
3)二次救命処置(ACLS:Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む)ができ、一次救命処置(BLS:Basic Life Support)を指導できる。					
4)頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。					
5)専門医への適切なコンサルテーションができる。					
6)大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。					

注)ACLSは、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命措置を含み、BLSには、気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸等の、機器を使用しない処置が含まれる。

(2) 予防医療

必修項目 予防医療の現場を経験すること

	a	b	c	d
1)食事・運動・禁煙指導とストレスマネジメントができる。				
2)性感染症予防、家族計画指導に参画できる。				
3)地域・職場・学校検診に参画できる。				
4)予防接種に参画できる。				

(3) 地域保健・医療

必修項目 保健所、診療所、社会福祉施設、介護老人保健施設、へき地・離島診療所等の地域保健・医療の現場を経験すること

	a	b	c	d
1)保健所の役割(地域保健・健康増進への理解を含む)について理解し、実践する。				
2)社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。				
3)診療所の役割(病診連携への理解を含む)について理解し、実践する。				
4)へき地・離島医療について理解し、実践する。				

(4)小児・成育医療

必修項目 小児・成育医療の現場を経験すること

	a	b	c	d
1)周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。				
2)周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。				
3)虐待について説明できる。				
4)学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。				
5)母子健康手帳を理解し活用できる。				

(5)精神保健・医療

必修項目 精神保健福祉センター、精神病院等の精神保健・医療の現場を経験すること

	a	b	c	d
1)精神症状の捉え方の基本を身につける。				
2)精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。				
3)デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。				

(6)緩和・終末期医療

必修項目 臨終の立ち会いを経験すること

	a	b	c	d
1)心理社会的側面への配慮ができる。				
2)緩和ケア(WHO方式がん疼痛治療を含む)に参加できる。				
3)告知をめぐる諸問題への配慮ができる。				
4)死生観・宗教観などへの配慮ができる。				